

令和４年度第２回昭島市青少年問題協議会

昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事要旨

開催日時	令和４年１０月４日（火）１９：００～２０：２０
開催場所	アキシマエンス校舎等２階２０１会議室
出席者	【委員】 紅林 由紀子（委員長）、長野 基（副委員長）、臼井 規次、香月 温子 美座 孝明、指田 守昭、廣光 梅子、畑尾 伸之介（昭島警察署長代理） 【事務局】 滝瀬子ども家庭部長、葉袋子ども育成課長、久保田子ども育成支援担当係長 【策定支援事業者】 （株）地域総合計画研究所 丸尾
配布資料	・資料１：「昭島市子ども・若者未来対策推進計画」（素案） ・資料２：令和４年度第１回昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事録要旨 ・資料３：昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会名簿（R4.10.4時点）
傍聴者	なし
議事要旨	１．開会 子ども家庭部長 ２．挨拶及び新委員紹介 子ども家庭部長 ３．議題 （１） 昭島市子ども・若者未来対策推進計画（素案）について 資料に基づき事務局より説明した。 【委員長の進行により質疑応答】 ・３ページのところで計画策定の主旨を書かれていて目指すところがわかるようになったと思う。特に、子どもの困難な状況が記載されているが、ヤングケアラーも記載したら良いと思う。後半、４ページの社会的背景はもう少し詳しく書いたほうが良い。後半で「創造的未來を拓く」と記載されているが、それが唐突に見えると気になり、おそらくは、これからの時代が不確定でスピーディな時代、情報化、就業状況の変化、地球環境、国際状況等を全部含んでいて、それらが若者の不安感を醸成しているのではないかと思う。北朝鮮からミサイルが飛んできたこと、少子高齢化で年金がもらえない等も含めて、社会のできごとを敏感に受け取っている、そういうものを押さえていく必要がある。 →ヤングケアラーや社会的背景を具体的に記載する点については、ご意見を受け止め、記載する。 ・見た目の問題として、全体的にオレンジ系統にすることかと思うが、そうす

ると、棒グラフが同じような色で分かりにくい。18 ページなども凡例が小さくて分かりにくい。例えば、教育相談室相談内容など、凡例の四角をもう少し大きくすれば分かるのではないか。また、37p 基本方針の体系があって、38 ページに基本方針 1、43 ページに基本方針 2 とあるが、タイトルが目立たない。37 ページの基本方針のデザインと 38 ページ以下を統一するとわかりやすいのではないか。

→凡例の項目は大きくする。基本方針のところの表記は、統一性や分かりやすさに努めたい。

・33 ページ「3 子ども・若者を取り巻く昭島市の課題」のオレンジ色の部分は、大事なところなので協調した方が良い。38 ページ第 4 章の施策の展開は、事業内容はオレンジに文字が白抜きになって見えにくい。

→33 ページと 38 ページは見やすく修正する。

・課題について 33 ページの以降の文言を取った事の意図は理解したが、そのために (1) (2) (3) の区別が分かりにくくなってしまっている。(1) は子ども当事者のことについて、(2) 家庭のことについて、(3) は環境のことについて記載しているという認識でよい。

→ (1) は必要性の認識、(2) 家庭を含めての支援 (3) 環境づくりについてを記載している。

・33 ページについて「必要性」を課題とすると、必要が課題であることは明らかなので、例えば、子ども若者の希望を持った健やかな成長とか、力をつけることが大事等、必要性という言葉を使わない表現をしたほうが良いのではない。

・33 ページ (1) は「子ども・若者の自立に向けた成長の必要性」と最後に必要性があるが、(2) (3) には「必要性」の記載がない。表現を揃えた方が良い。また、(1) (2) は、1 段落目は必要性、2 段落目は現状、3 段落目が課題という構成になっているので、(3) も 3 行目の「昭島市では」で段落を分けるとよいと思う。自らの成長を促進させるという表現は違和感がある。「夢や希望を持って安心して成長するためには」という表現にしていきたい。その後の「家庭や地域の教育力」とあるが、学校を抜いてしまうのはどうかと思う。「家庭・学校・地域」ではどうか。「時代のニーズに合った柔軟な教育の充実」という表現の方が今の時代にはふさわしいのではないかと考えた。また、同じ文章の「・・・自然体験活動の機会を増加させることにより自己有用感を高め」などと「自己有用感」という表現を入れるとよいと思った。

→必要性の表現と、段落については修正したい。自らの成長を促進させるという表現は前回も意見をいただいていたこともあり、修正する。

・(2) のところは家庭に対して、(3) のところは、子ども若者の成長を支える環境づくりというのは、家庭以外の環境という趣旨だと思うので、それが分かるような表現にしたほうが良い。

→(3) の環境については、居場所づくりなどを言っていますので、分かりやすい表現を検討する。

・「支える」と「支援」はほぼ同じ意味なので、「見守り」という表現がいいのではない。

また、「・・・関わりの中で成長していきます」とあるが、「・・・関わるこ

とで社会性が育まれます」等の表現が良いのではないかな。

→検討する。

・64 ページの進捗評価について、この計画に関わらず計画を作って実行した後の評価が弱いという気がしている。ここには誰が何をしてどうするのかの記載はあるが、計画期間の5年間の間に、何回ぐらいの会議があって、途中で見直しをするのかといった、具体的な評価、進め方を具体的に書いたほうが良いのかなと思う。計画書全体は内容が網羅されていて良いと思ったが、評価の部分が弱い。

→進捗と評価については、各課で事業をやっているの、毎年度末に評価をして7月の会議にかける予定である。次の計画になるときは、令和8年度のあたりから改定の検討を始めることになるので、それについて記載を検討する。

・基本的には1年に1度評価するということか。

→そうである。

・市の資料として整理されて、昭島市がどうかというのはわかるが、この資料をどのように利用するかが分からない。具体的な行動計画につながるのか。

→今回の計画は令和5年度からとなる。60 ページに記載されている施策を各課が行い、進捗を検証しながら事業の内容をブラッシュアップしていく流れとなる。計画の素案については、市民の方々にも意見をいただき、それを反映して、市長等の答申も含めて計画を策定していくこととなる。

・各施策については、各部課で走り出しているものなのか。新たに取り組むものはあるか。

→施策の各事業は、各課に諮って回答を得た事業となっている。主には現状実施している事業である。目標を達成するためには、評価をして、新たな事業や手法を考える必要性が生じる可能性もある。

→昔の計画には事業の一覧表の掲載がないものがあつた。昨今の行政の計画では施策に具体性を持たせ、分かりやすくするため事業を掲載するようになっている。一つ一つの事業は例えば防災など既に他の視点で実施しているが、それを子ども・若者計画としても活用するというイメージで捉えてほしい。これらの事業は毎年評価しているもので、今後は、子ども・若者計画の視点でも評価することになる。また、事業を実施して数年ですぐに成果が出るものばかりではなく、でっこみひっこみがあつて、だんだんと成果が出てくるものである。期限を定めて実施するのが良いのか難しいところだが、ここでは5年間ということで計画を策定する。

・この計画の事業内容は、図書館に学習するスペースを用意するなど、わりとハードな部分を記述していると思うが、その先のソフト的なアプローチのほうが大切だと思う。この居場所づくりというのが箱の話なのか、場所を作ったからといって子どもたちは自立して成長していけますよねとはならない。計画は大きなことを示すので個別の細かいことまでは記載できないということは理解しているし、この計画には担当課まで記載されていて説得力がある。ソフトの話をもっとやったほうが良いのではないかな。事業内容にそういうのを書くとか共感が得られるのではないかな。箱を作ったら、何人の子どもが自己肯定感を持てるのか、とても難しいことだと思うが、そうい

	う定量的な評価が見えにくい。例えば記載している内容を半分にしても、自己肯定感を持てるという効果が上がる事業を実施した方がいいのではないかと。 →ハード事業が多いとは考えていない。38 ページについても、ソフト事業が多い。ただ、書き方については工夫できると思う。例えば、居場所を確保するというのは行政が求められているので、そのあたりを踏まえて、ソフト的な表現を検討したい。 ・支援がいろいろあるが、それらの情報を提供するシステムはあるのか。 →困ったことに対応できるよう、カテゴリーごとにリーフレットにして、保育園や小学校に年に1回配る等はしている。 ・インターネットの活用等、子どもが自分で見つけられるようなシステムが必要ではないか。 →ホームページでも同じ情報を提供している。アンケート調査結果にもあったとおり、今の子どもたちは、ほとんどの子がスマホを使っているのは認識している。 ・子どもは先生も親も頼らない場合もあるので、もっと子どもが情報にたどりつけるようにアピールしていくべき。学校の中でも、子どもを守るために面接は二人以上にするとか、問題が起きた時には窓口があるとか、年に何回かは訴訟がある。 →子どものなんでも相談といったことか。 ・子どもが自分で困っていることなどをたどっていくと、解決策を発見できるようなシステムはないのか。 →市のホームページでは、各担当課により項目別に事業を掲載している。 ・昭島市のホームページの中に子ども専用のホームページを作ったら良いのではないかと。子どもたちは、自分たちの世界の中で行動している。 ・親が気付かないことを、子どもが気付く場合もある。 ・子どもたちにとって分かりやすいページに飛ぶ工夫が必要である。 →子どもに分かりやすい情報提供の仕方が必要だという意見を受け止めさせていただき、どのような方法があるか工夫をしていきたい。 ・昭島の青少年のホームページが大人向けに見える。 ・子どものためのホームページが必要なのではないかと。市のホームページは大人向けで子どもにはわかりにくいかもしれない。 ・市のホームページを子どものために改良することでもいいと思う。 ・45 ページに相談機能の強化がある。 ・子どもの悩みをきく、学校でも家でもない機関は具体的にどのようなになっているか。 ・若者は、電話はしない。ネットやLINE、メール相談ならする。 ・若者の専門家が主体的に市のホームページを作っていこうと呼びかけたりできるといい。そういうことが得意な若者もいるので発掘するべきではないか。 →すぐに改善するというのは約束できないが、検討していきたい。 ・相談のQ&Aなどでもいいのではないかと。 ・教育のページ、くじラーニングがあるので、そこにQ&Aをつけることでも良いのではないかと。
--	---

	・38 ページなど、「達」と「たち」が混在しているので、統一してほしい。 ・学校の修学旅行とか、小学校の移動教室、特別活動等は、こういう中に入っているのではないか。学校の事だと、全ての子どもが参加できるので、そういうのも入れてもいいのではないかと思った。前は、地域スポーツサークルの活性化、学校部活動の支援等のも今回省かれたようだがあった方が良かったと思った。 →事業掲載数が多すぎるという意見があり、スポーツ活動の関係も整理して記載させていただいた。 ・59 ページのところの貧困対策は、方針のところに、課題が第4章に記載されている。第2章の課題に記載した方がいいのではないかと思ったが、貧困は貧困として別建ての方が良いのか。 →昭島市としては、今回の子ども・若者計画と貧困対策計画の2本を一つの計画とし一体化を図るが、特性を出すためにあえて別建てとした。 ・48 ページ冒頭の不登校の記載について、学校への復帰が強調されているが、今は保護者や子どもたちに向けて自立にむけて支援するという方向になっていると思う。教育振興計画でもそのような方向である。 ・今は学校への復帰がメインではない。 →修正を検討する。 ・用語解説について、社会的自立の種類、定義をできれば入れてほしい。ひきこもり、学校へ行けなかった人にとってはキツイ言葉になっていると思うので、どういう意味で使っているのかを記載してほしい。 →そのような内容を用語解説に入れる。 4. その他 事務局より ・本日いただいたご意見や庁内委員会の意見を合わせ、再検討し、11月の専門委員会にて、再度ご提示させていただきたい。次回、11月4日に開催。参加をお願いしたい。前回の議事録を昭島市HPに掲載のため、確認し、修正等必要があったら10月14日（金）までに事務局へ連絡を。 5. 閉会 副委員長より挨拶 以上
--	--